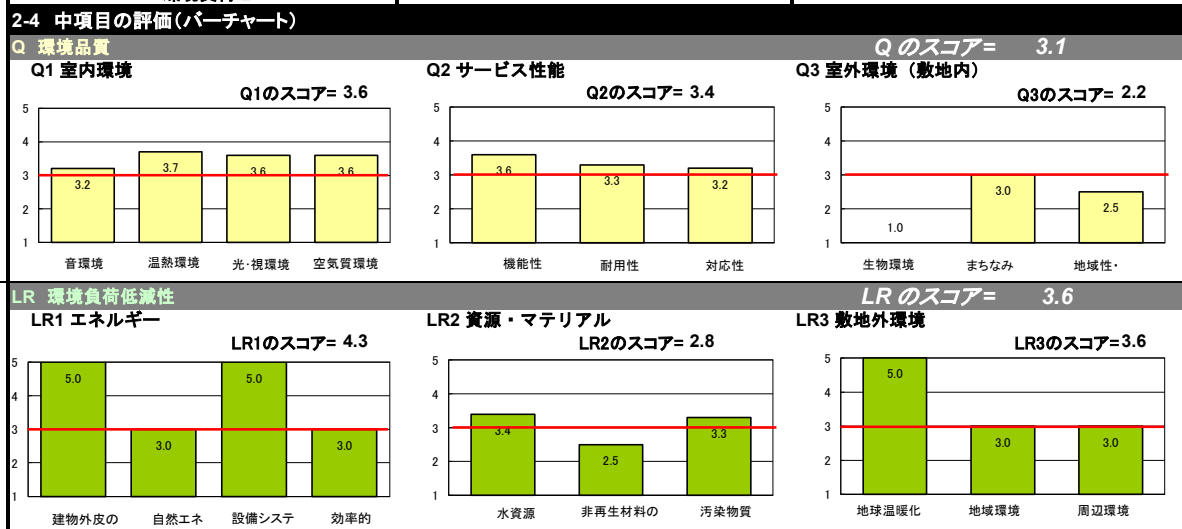
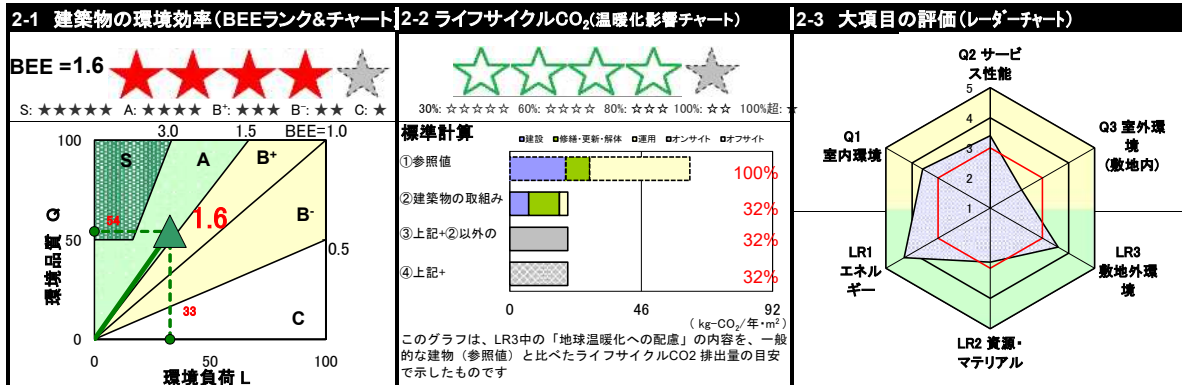


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	リフローレ岡崎駅EAST	階数	地上15階
建設地	岡崎市羽根東町二丁目2番5、2番10、2番11、2番12	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	131 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年9月 予定	評価の実施日	2025年7月30日
敷地面積	1,323 m ²	作成者	新美稔哉
建築面積	270 m ²	確認日	2025年7月30日
延床面積	2,735 m ²	確認者	新美稔哉



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
5.0	1.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
2.8	1.0
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 11.9 % 建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %	
<外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
リフローレ岡崎EAST

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	全体
配慮項目	独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル				0.1	3.0	0.15	3.3	3.3	1.00
1.2 遮音				3.0	3.0	0.50		3.0	0.50
1 開口部遮音性能			専用部開口、遮音等級T-2以上	0.5	3.0	0.50		3.6	0.50
2 界壁遮音性能					3.0	1.00		5.0	0.30
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					3.0	-		3.0	0.30
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	-		3.0	0.20
1.3 吸音					3.0	-		3.0	-
2 温熱環境									
2.1 室温制御				0.3	2.4	0.35	4.0	4.0	1.00
1 室温			断熱等級4相当の基準を満たす	0.5	3.0	0.50	4.0	4.0	1.00
2 外皮性能				3.0	3.0	0.63		-	-
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.38		4.0	1.00
2.2 湿度制御				3.0	3.0	-		-	-
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.20		-	-
2.3 空調方式				3.0	1.0	0.30		-	-
3 光・視環境									
3.1 昼光利用				0.2	3.0	0.25	3.8	3.8	1.00
1 昼光率			過半の住戸が、南と東に二面窓がある	0.3	3.0	0.30	3.6	3.6	0.50
2 方位別開口				3.0	3.0	0.60		3.0	0.50
3 昼光利用設備				3.0	3.0	-		5.0	0.30
3.2 グレア対策				3.0	3.0	0.40		3.0	0.20
1 昼光制御			カーテンやバルコニー庇で昼光制御をしている	0.3	3.0	0.30	4.0	4.0	0.50
3.3 照度				3.0	3.0	1.00		4.0	1.00
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.15		-	-
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25		-	-
4 空気質環境									
4.1 発生源対策				0.2	3.6	0.25	3.6	3.6	1.00
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆を全面的に使用	0.6	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63
4.2 換気				3.0	4.0	1.00		4.0	1.00
1 換気量				0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.38
2 自然換気性能				3.0	3.0	0.50		3.0	0.33
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	-		3.0	0.33
4.3 運用管理				3.0	3.0	0.50		3.0	0.33
1 CO ₂ の監視				-	-	-		-	-
2 喫煙の制御				3.0	3.0	-		-	-
3.0 3.0				3.0	3.0	-		-	-
Q2 サービス性能									
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	2.5	0.40	3.8	3.8	1.00
1 広さ・収納性			各住戸にGbitのブロードバンドを整備	0.4	3.0	0.40	5.0	5.0	0.60
2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	-		3.0	-
3 バリアフリー計画		独自		3.0	3.0	-		5.0	1.00
1.2 心理性・快適性				3.0	3.0	1.00		-	-
1 広さ感・景観 (天井高)				0.3	1.0	0.30	2.0	2.0	0.40
2 リフレッシュスペース				3.0	3.0	-		3.0	0.50
3 内装計画				3.0	3.0	-		-	-
1.3 維持管理				3.0	1.0	1.00		1.0	0.50
1 維持管理に配慮した設計			防汚性に考慮した設計を行っている	0.3	3.5	0.30		-	-
2 維持管理用機能の確保				3.0	4.0	0.50		-	-
2 維持管理用機能の確保				-	3.0	0.50		-	-
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.3	3.3	0.31	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.4	3.0	0.48	-	-	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.80	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	3.0	0.20	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数			品格法劣化の軽減に関する等級3相当を確保	0.3	4.3	0.33	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②	外壁タイル貼	-	5.0	0.23	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			ビニルクロス貼り	-	5.0	0.23	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	4.0	0.09	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			水道用ポリエチレン管、VP管使用	-	3.0	0.08	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	5.0	0.15	-	-	-
2.4 信頼性				-	3.0	0.23	-	-	-
1 空調・換気設備				0.1	2.8	0.19	-	-	-
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-
3 電気設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法		②		3.0	3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-

3 対応性・更新性			0.2	3.1	0.29	3.3	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり			-	-	-	3.6	3.6	0.50	
1 階高のゆとり			-	3.0	-		4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	3.0	-		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			1.0	3.1	1.00			-	
1 空調配管の更新性			-	3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	4.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30		-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			-	1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			-	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30		-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			-	2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.6
LR1 エネルギー				-	0.40		-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	5.0	0.33		-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.17		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			3.0	5.0	0.33		-	-	5.0
4 効率的運用			0.1	3.0	0.17		-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-		-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	-		-	-	
集合住宅の評価			1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング			-	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制			-	3.0	0.50		-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	-	2.8
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水			3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	1.00		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	-		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.5	0.63		-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	1.0	0.20		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	3.0	0.05		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	3.0	0.24		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.3	0.22		-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.5	0.68		-	-	
1 消火剤			-	-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			-	4.0	0.50		-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮			-	5.0	0.33		-	-	5.0
2 地域環境への配慮			0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.2	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減			-	3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制			-	5.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音			-	3.0	1.00		-	-	
2 振動			-	-	-		-	-	
3 悪臭			-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制			-	3.0	-		-	-	
3 日照阻害の抑制			-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70		-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート
リフォーレ岡崎駅EAST

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				5.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10	2.8
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:11.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 リフローレ岡崎駅EAST

計画上の配慮事項	
総合	計画建物は、住宅地内にありプライバシーの確保に配慮した
Q1 室内環境	化学汚染物質の低減の為、F☆☆☆☆製品を全面的に採用した。
Q2 サービス性能	階高を2.91m確保し、快適性の向上を図った。
Q3 室外環境(敷地内)	空地率を75%以上確保した。
LR1 エネルギー	消費一次エネルギーを基準値以下となるように配慮した。
LR2 資源・マテリアル	節水器具の使用を心がけた。
LR3 敷地外環境	周辺環境に配慮し、適切な離隔距離をとり、環境悪化の低減を図った。
その他	無し